

利尻礼文研修旅行

日程：2014年7月24~29日

参加：小林光子 佐藤幸輝 塚本 紘 塚本栄子 富田研二 山田光子

24日（木）

晴れ。飛行機の窓からは薄い雲の下に地図帳通りの地形が見え、稚内の波打つ丘陵地帯では風力発電の風車が林立しているのが手に取るように見えました。稚内空港はこじんまりと小さく、ロシア人の歌と踊りで歓迎され、北の国境に近いことを実感させられました。

即、レンタカーで日本最北端の宗谷岬へ。そしてホタテの入ったラーメンを味わいました。夏に、クーラーのない北海道最果てで熱々ラーメン、北海道でも暑かった！けど美味しかった！次に目指すは待望のサロベツ湿原。ひたすら広い湿原でした。その広さを実感したのは、稚内に戻るためのカーナビの指示を無視（！）してみんなで右だ左だと勝手な方向を言いあい、走っても走っても湿原の中にいたときでした。いっこうに目指すオロロン街道に出ない、、、。人もいない、、、。やっと人のいる牧場を見つけ、道を聞いて無事街道へ。北海道の道路はひたすら真っ直ぐで行き交う車もありません。富田さんのアクセルを踏む足は快調で、そのうち離陸するのではと錯覚しましたよ。



日本最北端 宗谷岬



サロベツ湿原センター



湿原内の木道

ノシャップ岬で夕日を見るには時間も早く、記念撮影をして今夜の宿、ANA ホテルへ。夜、北海の魚三昧の夕食で旅の無事を願って乾杯！

25日(金)

早朝のフェリーで礼文島へ。宿へ荷物を置いてタクシーで最北限のスコトン岬をまわり、ゴロタ岬登山口から礼文島縦断（西側を南下）を開始しました。8時間コース、もしくは10時間かかると言われているコースです。ゴロタ岬から緩やかに広がる丘、丘、丘を超えて海岸線（西上泊）に降り、また登り返して再度海岸線ウエンナイ（宇遠内）に降り、反対側（東側）の海岸線カブカ（香深）までまた山越えする健脚コースです。

9時25分スタート。植物の大家が半分を占める私たちのパーティーはもうどんな花でも出て来い！の心境です。ピンクや白のノコギリソウ、クサレダマ、ノリウツギ、花の名前を書いたりするとそれだけで数ページになりそうです。そしてシシウド、イタドリの大きさには驚きました。2メートルはありました！

礼文ウスユキソウ群生地近くで、山一面が縞模様に刈られているところがありました。以前山火事でかなりの森林を焼失して、その水源林を回復させるための赤エゾマツ、ナナカマドの植林をしているのだそうです。植林ボランティアに参加したかったです。（ブドウを植えてワイン作りをしてくれたら良かったのに、なんてフキンシンなことを言ったのはxxさんです。）

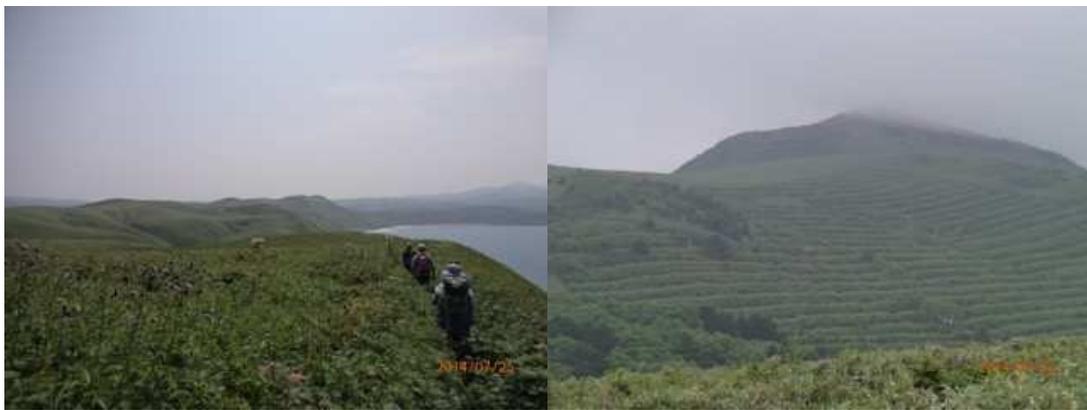
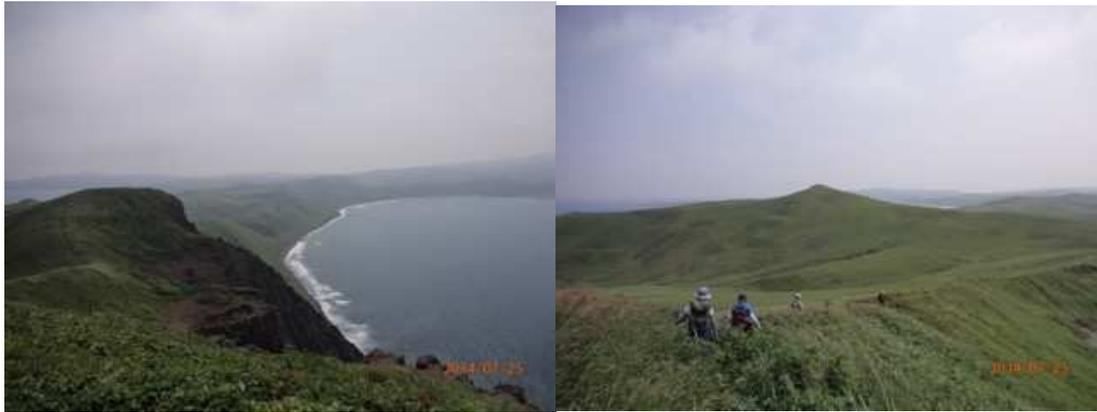
さんざん歩いて降りた宇遠内の浜では一組の漁師さんが昆布干しをしてました。時間は夕方5時。思い切って島の反対側の香深まで船を出してもらえないか頼んだところ、いまは昆布漁で忙しいから大儀だア、大儀だアとニコニコしながらOKしてくれました。もうすぐ90歳という元気な老漁師はビュンビュン船を飛ばし、私たちも船に揉まれながら岸壁を流れる滝など景観を楽しみました。時間も1時間半節約でき、無事スリリングな一日を終えました。今日の歩数34000歩。足への感謝をビールで乾杯！



ゴロタ岬から礼文島縦断開始



ミヤマシシウド



ゴロタ岬からのトレッキングは、海の見える丘を風に吹かれながらの緩やかな下りで、快適などと言う表現ではとても足りず、全員鳥になった気分でした！急斜面を降りて宇遠内に降り立つと利尻昆布が天日干しに。
写真右中は山火事で消失した森林回復のためのエゾマツとナナカマドの植林。

26日(土)

やり残した島の南を走破すべく8時15分歩き開始。うねうね続く丘を越え、花盛りの桃岩展望台へ登り始める頃からちょっと空があやしくなり、着く頃にはポツリと降り出してきました。早めのお昼を見えるはずの桃岩を想像しながら

らいただき、即、下山しました。お陰で予定より早いフェリーにギリギリで間に合い、利尻島へ。迎えの車でペンション群林風へ。

田村先生と学生二人（土佐岡君と中塚さん）は雨の利尻山での調査からまだ戻らないとのことで、私たちは近くにある利尻温泉へ。お湯はうす緑色をした熱めの天然温泉です。広い露天風呂で冷たい雨に打たれながら熱い温泉に入ってるって気持ちいいものですね。思わず長湯になってしまいました。無事先生達と落ち合えたので今夜も乾杯！ 今日の歩数21000歩。



礼文島桃岩は見渡す限り桃色

27日（日）

本来は利尻博物館主催の利尻の花の開花状況調査にボランティア参加する予定でしたが、生憎の雨降りだったので田村先生のご案内で島めぐりと、午後は博物館での講義に変更されました。

利尻町立博物館には田村先生の利尻島の土壌標本も陳列されており、島の歴史や生活用品の興味深い展示等がありました。田村先生からは火山灰土由来の土壌垂直成帯性の講義を受け、館長の中村さんからは一周60キロある利尻島がどのように出来たか等、利尻島に関する説明をお聞きしました。



田村先生の魚の餌を見つめるゴマフアザラシ



オタトマリ沼



沼を囲む針葉樹アカエゾマツ

その後、まだ少し残っている時間を利用して杓形園地を回って宿へ帰り、冷えた身体を利尻温泉で温めた。暖まった身体にビールが染み込みましたよ。今日は雨降りで約10000歩。



全員野生の猿に戻り、
群がって食べたグミ



レブンウスユキソウ

28日(月)

昨日とは打って変わって快晴の一日でした。朝食はおにぎりにしてもらい、スタート地点の利尻野営場まで送ってもらい、4時50分、さあ登山開始！ のはずが、10分ほど歩いたところに有名な甘露泉がこんこんとわき出していて、ココで朝食。火山灰の炭素が空気を保持し、そのお陰で水がわき出すのでしたっけ？ 田村先生の講義をちっとも理解してない私でした。お腹もできたし、今度は本当に出発です。フルマラソンで足を鍛えた佐藤さんの力強い歩き、身軽にひょうひょうと先頭切って登る富田さん、登山がはじめてとは思えない、疲れを知らない小林さん、みんなすごい！ 塚本夫妻はお互いいたわり合って私たちより少し緩め歩調で、お花を観察しつつ登られました。

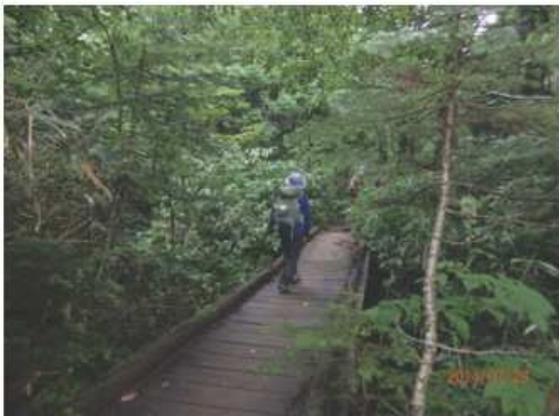


利尻岳登山口



8合目から見る利尻岳山頂

私たちは順調に高度を稼ぎ、9時45分には9合目にいました。塚本組はすぐ下の8合目長官山にいて、お互い携帯で位置確認して手を振り合いながら登りました。楽しくて疲れを忘れます。体力を考えて10時には登るのを断念して下山にかかる、という固い約束をしておいたので、9合目鞍部で周りの高山植物を見ながら、山頂を見ながら、そして今まで登ってきた下界を見ながらお昼にしました。朝、食べきれずに残っていたおにぎりがびっくりするくらい美味しかった！ 利尻のお米の美味しさをペンションオーナーが自慢していましたが、本当に北条米に匹敵する美味しさでした。しばし休憩のあとゆっくり下山。7合目と8合目の中間にある第2見晴し台から見下ろす樹林帯、姫沼、鴛泊の港、海、船、青空、どれも素晴らしくて見惚れて動けなくなってしまいました。



乙女橋が登下山の関所



シュムシュノコギリソウ

かなり長い時間座り込んで、あの天上の心地よさにひたりました。でも海岸線から少し離れて停まっている大きな自衛隊の軍艦が、ココはやはり国境に近いのだ、ということを感じさせました。ここからはひたすら下山で、3時過ぎ、再び甘露泉で塚本組と合流し、お互い自分の見た花や景色を自慢しつつ野

営場まで戻りました。宿からの迎えを待つ間、また来られることを祈って利尻山応援バッジを購入。夕方ペンションのお誘いで沈む夕日を見に夕日ヶ丘へ。



ツリガネニンジン



トリアシショウマ

この日は歩きついでに利尻温泉まで徒歩で行き、歩数合計約30000歩強でした。よく歩いたことにまともや乾杯！

29日(月)

朝8時半のフェリーで稚内へ。フェリーから眺める稚内の港を守る北防波堤ドームは、今いるのはどこの国？と思うほどきれいな大きな神殿のように見えました。稚内空港内レストランで昼食。今回の研修旅行の成功を祝って乾杯！稚内を1時に出て、3時前にはもう羽田。楽しかったたくさんの思い出と軽くなった財布を持って無事帰宅しました。



船から見た425mもある北防波堤ドーム（北海道土木遺産）

追記

礼文島では「礼文 花の島を歩く」の著者で写真家の宮本清一郎さんと幸運にも2回もお会いしました。田村先生ともお親しくて、お話を伺ったり、素敵なサインを本にしてもらいました。ラッキー！田村先生もマルチの才能を發揮され、昨年お話ししてらした歌手デビューをいよいよ果たされ、利尻岳を背

景に朗々と歌ってらっしゃる映像を見せて頂きました。 Amazon で C & G Ken 『君が果たしたかった夢』、

200円でダウンロードできます。

記：山田光子